

第110回日商簿記3級 第1問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	現	金	過	不	足	当	座	預	金	有	価	証	券	
受	取	手	形	売	掛	金	未	収	入	金	前	払	金		
仮	払	金	貸	付	金		当	座	借	越	支	払	手	形	
買	掛	金	未	払	金		前		受	金	仮	受	金		
借	入	金	売			上	受	取	利	息	受	取	手	数	料
有	価	証	券	売	却	益	仕			入	支	払	利	息	
通	信	費	保	険	料		有	価	証	券	売	却	損	雑	損

1. 当期に額面 ¥ 100 につき、¥ 95.50 で買入れた日和見筒井株式会社の社債のうち、額面総額 ¥ 5,000,000 を額面 ¥ 100 につき、¥ 97.00 で売却し、代金は月末に受け取ることにした。
2. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)
3. 仕入先との商談のため、従業員を京都まで出張させることとし、旅費の概算額 ¥ 50,000 を現金で渡した。
4. 現金の実際有高が帳簿残高より ¥ 30,000 不足していたため、かねて現金過不足勘定で処理しておいたが、その原因を調査したところ、通信費 ¥ 45,000 が記入漏れであること、ならびに保険料の支払額 ¥ 58,000 を ¥ 85,000 と誤記入していたことが判明した。なお、残額については原因不明のため、雑損または雑益として処理することとした。
5. 仕入先今川商店から販路拡張のための資金 ¥ 1,000,000 を、期間 6 か月、利率年 6% の条件で借入れ、利息を差し引いた残額について同店振出しの小切手で受け取った。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	未収入金	4,850,000	有価証券 有価証券売却益	4,775,000 75,000
2	(試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)			
3	仮払金	50,000	現金	50,000
4	通信費	45,000	現金過不足	30,000
	雑損	12,000	保険料	27,000
5	現金	970,000	借入金	1,000,000
	支払利息	30,000		

・解説

1. 有価証券の売却・未収入金に関する問題です。

帳簿価額と売却価額との差額を売却損益で処理しましょう。

・帳簿価額 = 5,000,000 円 × @95.50 円 / @100 円 = 4,775,000 円

・売却価額 = 5,000,000 円 × @97.00 円 / @100 円 = 4,850,000 円

・貸借差額 = 4,850,000 円 - 4,775,000 円 = **75,000 円** (帳簿価額 < 売却価額 → 売却益)

なお、売却代金はまだ受け取っていないので、未収入金で処理します。

有価証券の売却に関する問題は、第 102 回の問 5 や 第 116 回の問 5、第 118 回の問 1、第 123 回の問 4、第 126 回の問 4、第 131 回の問 1、第 142 回の問 4、第 147 回の問 5 でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

3. 仮払金に関する問題です。

旅費の正確な金額は、従業員の出張後でなければ把握できないので、とりあえず一時的に仮払金勘定で処理しておき、旅費交通費の正確な金額が判明したときに、仮払金を適当な勘定科目に振り替えます。

なお、その後、旅費交通費の正確な金額が確定し、旅費を精算する場合の仕訳が問われる場合もあるので、この機会に仕訳を押さえておくと良いと思います。

☆類題①…仮に旅費が 100,000 円だった場合の仕訳

(借) 旅費交通費 100,000 / (貸) 仮払金 50,000  
(貸) 現金 50,000

☆類題②…仮に旅費が 20,000 円だった場合の仕訳

(借) 旅費交通費 20,000 / (貸) 仮払金 50,000  
(借) 現金 30,000

仮払金に関する問題は、第 100 回の問 4や第 110 回の問 3、第 115 回の問 5、第 119 回の問 4、第 124 回の問 4、第 129 回の問 4、第 146 回の問 5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. 現金過不足に関する問題です。

問題文の「現金の実際有高が帳簿残高より ¥ 30,000 不足していたため、かねて現金過不足勘定で処理しておいた」から、帳簿残高を実際有高に合わせるために以下の仕訳を切っていたことが分かります。

☆参考・現金のズレを調整したときの仕訳

(借) 現金過不足 30,000 / (貸) 現金 30,000

現金過不足の仕訳を考えるさいは常に**実際有高に合わせる**のがポイントです。本問の場合、実際有高のほうが 30,000 円少ないので、同額だけ現金の帳簿残高を減らしてズレを調整します。

上記の仕訳から、借方に現金過不足 30,000 が計上されていることが分かるので、まず、**現金過不足の残高をゼロにする**ために同額を貸方に計上します。

★ステップ 1・現金過不足の残高をゼロにする

(貸) 現金過不足 30,000

次に、問題文に「通信費 ¥ 45,000 が記入漏れであること、ならびに保険料の支払額 ¥ 58,000 を ¥ 85,000 と誤記入していたことが判明」とあるので、記入漏れが判明した通信費をそのまま計上します。

また、誤記入が判明した保険料に関しては、貸方に 27,000 円を計上することにより正しい金額に修正 (85,000 円 → 58,000 円) します。

★ステップ 2・原因が判明したものを正しく処理する

(借) 通信費 45,000 / (貸) 現金過不足 30,000

(貸) 保険料 27,000

最後に、貸借差額を雑損または雑益で処理します。

★ステップ 3・貸借差額を雑損または雑益で処理する

(借) 通信費 45,000 / (貸) 現金過不足 30,000

(借) 雑損 12,000 / (貸) 保険料 27,000

現金過不足の決算整理仕訳は、上記の 3 ステップにあてはめて考えると分かりやすいです。

現金過不足に関する問題は、第 111 回の問 4や第 115 回の問 1、第 117 回の問 1、第 123 回の問 2、第 133 回の問 4、第 135 回の問 1、第 142 回の問 5、第 147 回の問 1、第 150 回の問 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 資金の借りに関する問題です。

本問では利息相当額を借りに入れ時に支払っているの、資金返済時には元金相当額（1,000,000 円）の支払いのみです。貸方の借入金勘定の金額を 1,030,000 円にしないように注意してください。

なお、問題文の「同店振出しの小切手で受け取った」より、借方の現金勘定を当座預金勘定にしてしまう方がいらっしゃいますが、小切手の受け取りは現金として資産計上するので、間違えてしまった方ご注意ください。「すぐに当座預金勘定に預け入れた」の一文がある場合にのみ、当座預金の増加として処理します。

■小切手を受け取った場合の仕訳

- ・他店発行の小切手…現金の増加として処理
- ・当店発行の小切手…当座預金の増加として処理

一方、利息については、問題文の「期間 6 か月」という部分を見落とさないように注意してください。問題文を読んだときに丸で囲むなり、ラインを引くなりして目立たせておく方が良いと思います。

$$\text{支払利息} = 1,000,000 \text{ 円} \times 6\% \times 6 \text{ か月} \div 12 \text{ か月} = 30,000 \text{ 円}$$

資金の借りに関する問題は、現時点では本問のみです。